

海洋にあるゴミが周りのものにどう影響するか また、海の豊かさを守るためにはどうすれば良いか

気仙沼高校 3410B班

序論



現状

- ①生物の体の中にゴミがある。
- ②またゴミがあることによって魚が取れなくなったり私生活にも影響を与える。
- ③私たちが変えていく。

背景

・街中ではストローを紙製にしている、マイバック・マイボトルの使用などほかにもいろいろな対策がある。
→このような活動で少しでも環境に良くなっている
仮説:ゴミが削減しない理由には、人間と環境の間に何か関係がある。また、見る点、人間の行動、身体にも問題がある。

根拠2

その人個人のゴミや環境に対する意思がなくなってるから



参考文献 私生活でポイ捨てする人とそれを見た人の感情
www.value-press.com

- ・私生活の中でポイ捨てをする人は過去一年で約9%です。その中でもその人の思いは風や雨で海に流れていくことを知らないからだと思う。
- ・さらにその中で不快と思ってる人が約19%。町にごみが落ちていてもなんととも思わない人がいるからごみが減っていかない。
- ・身体に影響があるとわかってない。

本論



根拠1 目立たないところにごみが落ちているから
○海洋にあるごみについて 1992年～2016年



参考文献 東北工業大学工学部 FW資料

- ・海岸では2007年に上昇。
- ・3.0のところは海岸と河川のどちらにも多くみられる。

○宮城県で行っている取り組み
「環境美化活動」
「CHANGE FOR THE BLUE」など

結論・まとめ



- ・人間の生活排水や流木などで多くの生物の健康を害している。
- ・海や魚を守るためには、3Rの実施、マイバックの持参、ボランティア活動などの一人ひとりの協力(行動)が必要。
- ・ポイ捨てするひとがいる中で漁業関係者は漁港や海に浮かんでいるゴミの回収を行っている(海面清掃や海ごみ回収ステーションの設置)
- ・海洋にゴミがあることによって生物がそのごみを間違えて食べてしまいそれらが漁獲され人間の元へ渡りそれを人間が食べてしまい人間にも影響が与えられてしまう
- ・人間の意思も必要となり、その取り組みもファッションの一部

課題

- ・一人ひとりの協力が必要なのは分かったが、ゴミ問題の対策についての呼びかけなどどのように伝えていくかが今後の課題。
- ・紙製のストローは燃えるゴミとして処分しやすいが、子どもが誤飲してしまう恐れがあるため、積極的に使っていくのは少し心配である。

参考文献

気仙沼のかんきょう 令和3年度版
https://www.kesenuma.miyagi.jp



メモ用

海のゴミ＝地上のゴミ



台風や大雨などで運ばれてきたものがほとんど
直接海岸で捨てられたものは少ない

気仙沼でとられている対策

気仙沼市海洋プラスチックごみ対策アクションプラン

- 漁師の人たちの網などのゴミ回収ボックスを設置 (海ごみ回収ステーション)
- 海面清掃 (気仙沼湾内のゴミは流木などが9割を占めており、ペットボトルは約1割)
- マイバッグ運動、オリジナルマイバッグの制作

SDGs: レジ袋禁止 理解と不安 京都・亀岡 全国初条例へ＝訂正あり

プラスチックが魚の体内から見つかるケースが世界中で相次ぎ、欧州を中心に問題意識が高まった。
[スキャナー] プラ製品「代替」続々 紙のストロー、木のスプーン… より

また、海や河川を漂うプラスチックごみも魚の体内から見つかるなど、環境汚染が問題になっている。
再生プラ 強度10倍に 福大教授が独自機器開発＝福岡 より

https://www.kesenuma.miyagi.jp/sec/s028/020/010/010/040/030/3_shiryu1.pdf

①文字の大きさ・無駄な余白がないか確認しましょう。

文字が大きすぎたり、または小さすぎたり。余白が大きくなってしまっている班もありました。バランスを考えつつも情報をうまく入れられるといいですね。

②オリジナルデータの示し方を確認しましょう。

対象・対象人数・凡例・各項目の割合や数字等を、円グラフや棒グラフ等で表しましょう。特に対象人数と割合等の数字が抜けていることが散見されました。

③出典を明記する。

「本」や「Web」からグラフや図、文章を引用することがあると思います。その場合は出典を必ず明記してください。著作権に引っかかることがある他、評価にも影響します。

④調査方法や今後の展望を具体的に記しましょう。

調査方法について。よく見られるのが、「Classiでアンケートをとった」のようなもの。→「気仙沼高校生300人に○○に関するアンケート調査をClassiにて行った」のように具体的に。

今後の展開について。地社研って何？と4月から7月まで勉強しました。8月から班を結成して今まで頑張ってきました。まだ探究活動を始めて5ヶ月ほど。ツッコミどころのない発表をすることの方が不可能に近いです。未だ至らない点があって当然と割り切り、思い切って書いてみましょう！(揚野先生のclassroom投稿より)

1月12・13日(水・木)2時間 ポスター作成
 1月19日(水)2時間 ポスター完成&提出(切8:00厳守)
 ※間に合わなければAgまで相談してください。
 1月26日(水)2時間 領域発表会
 ※実際にポスターを使用し発表します評価対象です。
 1月29日(土)午前中 学年発表会
 ※1・2年生や大学教授、地域の方に向け発表します評価対象です。
 (揚野先生のclassroom投稿より)

◆参考情報◆研究活動に積極的に活用してください
 ○情報検索のエンジン
 A. 新聞 読売新聞:ヨミダスorスクールID:kesen PASS:JORAKU130
 朝日新聞:朝日けんさくくん)ID:ksn917ksk PASS:ksn116ksk
 B. 論文(CiNii, Google Scholar, J-stage)
 ※新聞検索は必ずログアウトして終えること。次に使う人が使えなくなるため。
 C. 統計資料Web Site(帝国データバンク, e-Stat, RESAS地域経済分析システム)
 (揚野先生のclassroom投稿より)

#434343

<https://www.spf.org/en/opri/projects/environment.html>

<https://www.spf.org/opri/>

紙のストロー→

↑参考になりそうなサイト

<https://www.spf.org/en/global-data/opri/whitepaper2020-en.pdf>

https://www.spf.org/en/global-data/opri/CBD_Briefing_paper.pdf

かながわプラゴミゼロ宣言



序論について発表します。まず、魚の体内にごみがあることが問題になっています。

それによって魚や海に悪影響があることのほかに、その魚を食べる自分達健康被害の懸念があります。

そしてそれを解決する活動を誰かが動き始めるのを待つのではなく、私たちから変えていくことが必要だ、ということでもまず気仙沼市がどのような取り組みをしているかから調べ始めました。

調べた結果、街中のいろいろな飲食店で紙製のストローを使用していること、市でオリジナルのマイバッグを製作、販売していること、他にもマイボトル使用の推進や海のゴミを回収する活動など様々な取り組みが行われていることがわかりました。そこから更に「なぜゴミが減らないのか」という仮説を立てました。取り組み以外での行動に何か問題があるのではないかと思ったからです。

海のゴミ＝地上のゴミ

↓

台風や大雨などで運ばれてきたものがほとんど
直接海岸で捨てられたものは少ない

気仙沼でとられている対策

気仙沼市海洋プラスチックごみ対策アクションプラン

- 漁師の人たちの網などのゴミ回収ボックスを設置
(海ごみ回収ステーション)
- 海面清掃
(気仙沼湾内のゴミは流木などが9割を占めており、ペットボトルは約1割)
- マイバッグ運動、オリジナルマイバッグの制作